

## くの一は女

JJ1SXA/池

「くの一」は元来は女を指す隠語で、「女」という字を分解して読んだだけのことだが、「くの一」と聞くと、矢張り「女忍者」というイメージだ。

忍者と言えば、甲賀忍者と伊賀忍者の2つが有名、この2つの忍びの里は、山を挟んで隣町(昔は隣村)にあるにも関わらず、その特徴は大きく異なっている。

甲賀忍者の里は、現、滋賀県甲賀市甲賀町、伊賀忍者の里は、現、三重県伊賀市上野丸之内だ、滋賀県と三重県で随分距離があると思っていたが、山を挟んだ隣村とは知らなかった、里の中心地から中心地までは車で約30分の距離。

甲賀忍者と伊賀忍者の違いですが、その組織運営の方法に大きな違いがあったそうです、甲賀忍者は「惣」と呼ばれる共同体だったと言われてますが、そこに参加する者の立場は対等なものだったと言われています、里として意思決定を行う際も、多数決によって運営を行っていました、今で言う民主主義に近いですね。

一方の伊賀忍者も共同体によって組織の運営を行っていましたが、その意思決定は「上忍三家」と呼ばれる3つの有力者の意向が大きかったそうです、「上忍三家」は服部半蔵を輩出した「服部家」、織田信長に抵抗した事で知られる百地三太夫を輩出した「百地家」、武田信玄の軍師であった山本勘助に忍術を教えたとされる藤林長門守を排出した「藤林家」の3家から成り、それ以外の家はこの「上忍三家」の意見を聞き入れる事が多かったそうです。

2つ目の違いとしては、依頼主との付き合い方が挙げられるようです、まず甲賀忍者の特徴として、依頼主を特定の家にと絞っていた点が挙げられます。

その背景には、甲賀忍者の起源が影響していると言われていています、彼らは、もともと守護大名の佐々木六角氏の配下だった地侍だったので、特定の大名との主従関係をハッキリさせる面があったのだと思われるようです。

その一方で、仕える大名が没落すると、甲賀忍者は仕える主をコロコロと替える一面もあり、彼らは手を組む大名を佐々木六角氏から織田氏、豊臣氏、徳川氏と次々と変えています、一見すると節操が無さそうに見えますが、これは甲賀忍者が、時代を読む力があつた証明だとも言えるでしょう。

一方、伊賀忍者は甲賀忍者と異なり、依頼があれば複数の大名に忍びの者を派遣していた、戦が起こり、双方から要請があつた場合には、それぞれの依頼に応じていたそうです、仲間同士であっても関係がないことから、非常に厳しい環境にあつた里と言えそうです。

この2つの里の違いとして、得意とした忍術の違いも挙げられるようです、甲賀忍者は医療や薬に精通していた忍びで、普段の生活では、お守りや薬を売り歩くことで、諜報活動を行っていました、現在、甲賀市は薬の町として製薬会社が多くあります、甲賀忍者の遺伝子が街に根付いているようです。

一方、伊賀忍者は、催眠術や手品を含む呪術を得意としています、山に囲まれた盆地であつたため、亡命者が多かつたことが影響しているようです、両手で印を結ぶ「九字護身法」という技や、印を結び呪文を唱える「印明護身法」と呼ばれる技、そして天・龍・虎と

いった文字を手のひらに書き、飲み、握るなどを行った十字の秘術などが有名です。

また、火薬の材料を入手しやすく、火薬の調合に精通していたことから、火遁の術も得意としていました、自身の姿を隠す火薬玉、火矢や狼煙を使用していたようです。伊賀忍者は、一般的に「忍者」と言われて想像するイメージに最も近いようです。

織田信長との関係においても、この2つの忍びの里は正反対でした、甲賀忍者は、織田信長と親しい関係にありました、もともと彼らは、佐々木六角氏と同盟関係にありましたが、佐々木六角氏の先行きが怪しくなると、力をつけていた織田信長に接近します、信長が伊賀忍者を攻め込む際には、これに協力した事もありました。

一方、織田信長と陰悪な関係であったのが伊賀忍者です、織田家との戦いを「天生伊賀の乱」と呼びますが、2度にわたる戦いで里が壊滅状態になるなど、かなり手を焼いていた。

最初の戦いでは、伊賀忍者の下山甲斐による裏切りがきっかけでした、彼が、信長の次男である信雄に、伊賀忍者の情報を告げることで、戦が始まりました、しかし、伊賀忍者はいち早く情報を入手し、奇襲に成功したことで乗り越えました。

2回目の戦いは、信長が信雄の失態に激怒し、自ら大軍を率いて攻め込み、伊賀忍者は迎え撃とうとするも、再び裏切り者が出て、伊賀の城への侵略を許してしまい、争いが終結しました。

甲賀忍者と伊賀忍者は、江戸幕府との関係も異なっていたと言えます、本能寺の変の勃発後、堺にいた徳川家康は伊賀出身の服部半蔵らに守られて三河国に戻りましたが、この功績によって伊賀忍者は江戸幕府、そしてこの地を治めた藤堂家の支配下に組み込まれていきます、一方で島原の乱やペリー来航時には偵察を行うなど、伊賀忍者は幕府の支配下で大いに活躍していたそうです。

伊賀出身で「奥の細道」の作者でもある俳人の松尾芭蕉は、一説では忍者だったとも言われています。

一方の甲賀忍者は秀吉に仕えていた時期に、徳川家康を監視する任務を与えられていました、そのため、家康の命令を受けた伊賀忍者と戦う事が多く、この事が「甲賀忍者VS伊賀忍者」という構図になり、講談や読本の題材になったそうです、江戸時代になると、甲賀忍者の生活は苦しくなり、武士の身分を獲得するための嘆願を行った事もあったそうですが上手くいきませんでした、こうした事情もあり、幕末に戊辰戦争が発生すると新政府軍に加わり、庄内藩との戦いで戦果を挙げたと言われています。

山を挟んで隣にある甲賀忍者と伊賀忍者ですが、その考え方は大きく異なるが、厳しい組織運営や仲間同士で敵対する事をいとわない伊賀忍者の方が、一般的な「忍者」のイメージに近いのかなと感じます。

甲賀忍者、伊賀忍者以外のその他の忍者集団

風魔(ふうま)は、風魔小太郎を頭目とする相州乱波であり、足柄山中を縄張りとする忍者集団である。

雑賀衆(さいかしゅう)は、中世の日本に存在した鉄砲傭兵・地侍集団の一つである。

黒脛巾組(くろはばきぐみ)とは、陸奥の戦国大名である伊達政宗が創設したと言われる忍者集団である。

根来衆(ねごろしゅう)は小牧・長久手の戦いに連動して雑賀衆らと共に大坂を攻撃し、羽柴秀吉の心胆を寒からしめた。

戸隠流(とがくしりゅう、とがくれりゅう)は、忍術の流派のひとつ。

備前流(びぜんりゅう)は、香取忠宗により創始された伊賀流と神道流を抱合した流派であり、忍術ではあるが武術としての位置付けが強い。

鉢屋衆(はちやしゅう)は祭礼や正月に芸を演ずる芸能集団であり、兵役も務めた。

黒鋏(くろすき)は戦国大名に仕え、小荷駄隊に属して、陣地や橋などの築造や戦死者の収容・埋葬などを行った。

軒猿(のきざる)とは、忍者の一種で、戦国期には、上杉謙信を中心に「けんえん」とも呼ばれていた。

戦国時代には、忍者の活躍場所が多かったことがわかる、諜報活動、後方攪乱等の任務は重要だったと思われる。

甲賀の里(滋賀県)と伊賀の里(三重県)は、  
山を挟んだ隣村、車で約30分の距離

